野球の守備はアプリに学べ

小学生向け 熊本高専制作

熊本高専熊本キャンパス（合志市須屋）の准教授と学生が、野球の守備の連係プレーなどを学べるパソコン用のアプリケーションソフトを制作した。2020年から小学校で必修化されるプログラミング教育の授業や、子どもの野球教室での活用を想定している。

野球アプリの動作を確認する岩田大助准教授（右）と藤末彩乃さん＝合志市。写真右は、走者と打球の行方に応じた守備の動き方などを学べる野球アプリの画面

アプリを使って守備の動きを確認する「山鹿レッズ」の子どもたち＝山鹿市

子どもたちの論理的思考力の向上と、競技人口が減少する野球への関心を高めるのが狙い。ソフト制作のきっかけは、同高専野球部（高校の部）の部員不足。現在は1年生5人しかおらず、監督の岩田大助准教授（44）と、プログラミング教育支援に力を入れる研究室の藤末彩乃さん（20）が取り組んだ。

アプリでは「ランナーなしで一、二塁間のゴロをファーストが捕球した場合」など、間違えやすい守備の9パターンで、画面上の選手が理想的な手本を表示。簡単な命令文で、選手の動きを指示するプログラミングの学習もできる。

昨年12月末、山鹿市で初めてアプリを活用した野球教室を開催。少年野球クラブ「山鹿レッズ」の27人が参加し、連係守備の仕方を学んだ後、練習でも実践した。「ゲーム感覚で学べるようにデザインを工夫した。思った以上に興味を持ってもらえた」と藤末さん。

岩田准教授は「スポーツを絡めた小学校でのプログラミング授業や、野球離れの歯止めにつながる野球教室などに活用したい」と話している。

（木村恭士）